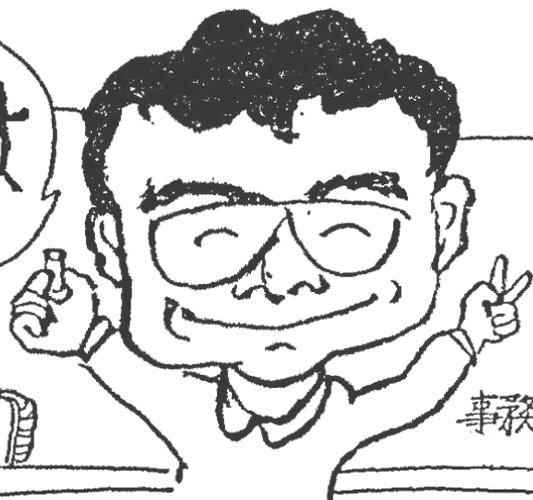


こんにちは

日本共産党
県議会活動報告
週刊ニュース

2015年6月14日 NO.844



きらとみに
吉良富彦です

事務所 吉良富彦事務所 855-9439 愛宕商店街
議会控室 823-9524 県議院内

宿毛湾の軍港化ノ

党高知県議団 宿毛市・大月町視察

宿毛(すくも)湾に面した高知県宿毛市で自衛隊の誘致、軍港化が狙われています。日本共産党の高知県議団は3日、宿毛市、隣町の大月町などを視察しました。沖本年男市長らと懇談し、地元漁師から話を聞きました。



宿毛湾の利用の説明を求める(右から)米田、塚地、吉良各県議ら＝3日、高知県宿毛市

自衛隊誘致狙う

宿毛市議会は2013年3月、海上自衛隊潜水艦部隊の誘致を決議。今年2月には市長や議長、宿毛商工会頭が連名の要望書を防衛省に提出しました。この要望書には「宿毛地域は物資の集積、装備品の設備、海上・航空部隊編成・訓練などを行う近傍作戦根拠地に最適」とまで言及しています。



この日の懇談で、吉良富彦県議は「議会決

議より大幅に自衛隊の宿毛港の活用を求めている」と指摘すると、沖本市長は「要望書は、3月議会の決議と変わらぬ、宿毛市の発展のために自衛隊の寄港を増やしてほしい」と説明。自身の考えと

して、「大災害などの緊急時に市民を守るため、自衛隊の駐留や宿毛港を役立ててほしい。LCCAC(エア・クッション型揚陸艦)も災害時は有効だ」と語りました。

これに対して米田総県議は「自衛隊の寄港が増え、災害時のために自衛隊が駐留し、訓練する。実質的には基地化ではないか」とたずねました。宿毛湾非軍事ネットの山下正寿

め、説明し声を聞くべきではないか」と問うと、沖本市長は「単なる自衛隊の寄港であり、説明をする必要はない」と答えました。日本共産党の山岡力

宿毛市議、浦木秀雄大月町議が同行しました。浦木町議は「宿毛湾に入港するためには大月町の海を通る。大月町には説明したのか」と質問。沖本市長は「大月町から説明を求めてきた。今後、話し合いを行っていきたい」と述べました。宿毛湾では県内で唯一、巻き網漁が行われています。1船20人の漁師が必要で、宿毛湾では9船、180人の雇用を生んでいます。ある漁師は県議団に、「事故の危険性が増える」「漁師にはいことはひとつもない」「説明がないのはあんまりだ」と訴えました。一方、尾崎正直知事は14年の予算要望で「県内の港は商業港。自衛隊の専用港の意思はない」と表明しています。県の漁業指導所、宿毛市と大月町の産業振興課、高知大学などが共同して、海をいかしたまちづくりが研究されています。県議団の塚地佐智団長は「豊富な資源のある宿毛の海やそこで働く漁師を守ることが、市民の安全やまちの発展につながる。宿毛湾の軍港化への道は断じて許すことができない」と訴えました。

●県の産業振興計画に

全く反する軍事利用

県の沿岸漁業生産額は396億円(H23)で、その3分の1が宿毛湾漁協。25年は148億円に増え、養殖業だけで135億円。(下図グラフ参照)宿毛湾での養殖魚の成長のスピードは全国平均より1.5倍早いと言われる、日本一の湾、宝の養殖港湾です。軍事利用促進は、この宝の海を捨てる、愚かな行為です。

宿毛湾の漁業生産額は全県の3分の1以上

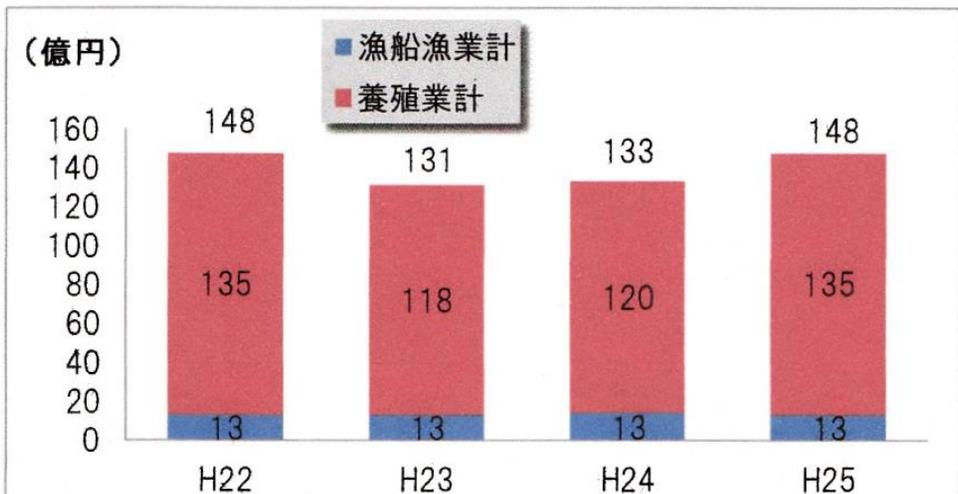


図8 漁業種類別生産額(漁船漁業+養殖業)

すくも湾漁協資料(養殖業は農林水産統計から推定)